

答 申 書 (案)

鹿児島市総合計画審議会

令和3年 月 日

鹿児島市長 下 鶴 隆 央 殿

鹿児島市総合計画審議会

会長 石 塚 孔 信

令和3年5月28日に諮問されました第六次鹿児島市総合計画基本構想（案）について、
慎重に審議した結果、次のとおり答申します。

答 申

第六次総合計画は、令和4年度を初年度とし、今後10年間における鹿児島市のまちづくりの指針となる、最も基本的かつ重要な計画です。

これからの時代のまちづくりにおいては、少子高齢化がさらに進み、人口が減少していくことに加え、新型コロナウイルス感染症による経済社会のあり方の変化、地球温暖化をはじめとする時代のさまざまな潮流を的確に見据える必要があります。その上で、本市の特性を最大限に生かしつつ、厳しさが増す財政状況も踏まえながら、南九州ひいてはアジアの中核都市として、将来にわたり持続的に発展する鹿児島市を市民、事業者、行政等みんなで創っていくことが重要であると考えます。

本審議会においては、このような考え方に立ち、基本構想について素案の段階から慎重かつ活発に審議を行ってまいりました。

令和3年度末までを計画期間とする現行の第五次総合計画については、令和元年度に行政評価が行われ、そして、先般、令和2年度末の進捗状況が公表されており、これまでのまちづくりの分析を踏まえながら策定を進めていくことは、まちづくりの継続性という観点からも大変重要であると考えます。

諮問された「第六次鹿児島市総合計画基本構想（案）」については、当審議会の意見はもとより、若者会議や地域別・テーマ別・在住外国人の意見交換などを通じて、数多くの多様な市民の意見を受けて、真摯に対応を検討され、とりまとめられているものと考えます。

また、世界共通の目標であるSDGs（持続可能な開発目標）については、未来都市として、その視点を積極的に取り入れ、その推進を図っていくことは、国際社会の一員として、時代の要請にも応えるものであると考えます。

基本構想（案）で掲げられた都市像「つながる人・まち 彩りあふれる 躍動都市・かごしま」の実現に向けては、本市の多彩な資源や特性を生かし、社会経済情勢の変化やさまざまな課題に、市民との協働・共創を推進しながら対応していくなど、持続可能な都市運営を進め、誰もが個性と能力を発揮できる、希望にあふれた鹿児島市を創造されるよう要請します。

また、基本構想の最終的なとりまとめを行い、同構想に基づき総合計画を推進していくにあたっては、次の点に十分留意されますよう提言します。

1. 総括的事項

(1) 社会経済情勢の変化や時代の要請への柔軟な対応

- ① 10年後にどうあるべきかというビジョンを持ちながら、社会、経済、そして市民を取り巻く時代の潮流や今後の様々な環境の変化を捉え、しっかりと対応していくこと。
- ② SDGs（持続可能な開発目標）の視点を大切に、誰ひとり取り残さない鹿児島市となるよう、市民の幸せにつながるような政策の実現を目指すこと。

(2) 「協働」から「協働・共創」へ

- ① まちづくりは、行政がやるべきこと、市民や地域、事業者ができること、各主体が連携しながら取り組むことがあり、各主体が当事者意識を持ち、能動的にまちづくりに関わっていけるような仕組みづくりを行っていくこと。
- ② 市民や地域、大学、事業者などあらゆる主体の資源や機能、特色を生かし、ハード・ソフト両面から地域や社会の課題を持続的に解決する方法を共に考え、共に行動する協働・共創の視点を大切にすること。

2 基本構想（案）に関する事項

(1) 都市像

- ① 長年培われてきた鹿児島市ならではの心の豊かさや人に着目し、顔を合わせ、対話する中で人を育てるなど、人と人とのつながりや支え合いを大切にすること。
- ② 国籍、性別、年齢、障がいの有無、居住地などを問わず様々な意見や視点を大切に、基本的人権や多様性が尊重される地域社会をつくっていくこと。
- ③ 自治体間の競争が進み、とりわけ若者の県外流出が危惧される中においても「選ばれる鹿児島市」となるよう、様々な自治体・地域と連携しながら、医療や子育て、産業などの環境を整備し、働きやすい・暮らしやすい鹿児島市の実現を目指すこと。

(2) 基本目標

- ① スポーツや文化など複数の政策に関連する分野については、各基本目標間で連携し、多面的な視点から取組を進める中で、その実現を目指すとともに、社会における様々な機能等の複合・連携の視点を持って取り組むこと。
- ② ICT（情報通信技術）の利活用については、高齢者などにも配慮しながら、市民サービスの向上や社会課題の解決、多様な社会への関わり方の実現等の観点を大切に、あまねく市民がその恩恵を受けられるよう進めること。
- ③ 鹿児島市の様々な資源や魅力を市民も巻き込みながら発信するとともに、市民が地域に目を向け、地域の価値を再認識できるよう、シビックプライド（自らのまちに対する誇りや愛着）を醸成すること。

- ④ ゼロカーボンシティや3Rなどに市民全体で取り組みながら、持続可能な地域社会の実現に努めるとともに、それが行政や企業にとって強みとなるよう取組を進めること。
- ⑤ 人口減少に伴い労働力人口の減少や消費市場の縮小なども懸念される中、まちの活力を維持・向上させていくために、新しい産業の創出支援や戦略的な企業の誘致、生産性向上、高付加価値化などを通して、地域の稼ぐ力を向上させ、未来を担う若者をはじめとしたあらゆる世代の働く場づくりを進めること。
- ⑥ 鹿児島島の自然や風土に育まれた文化・芸術・祭り・スポーツ・歴史・食など、あらゆる資源の活用や新たな魅力の創出、資源の掘り起こしの視点を大切に、それを鹿児島市の強みとして観光・交流の推進や地域産業の活性化などに積極的に生かしていくこと。
- ⑦ 多様な暮らし方に配慮しながら、市街地、農村・中山間地など、それぞれの地域で、誰もが心豊かに、安心・快適な生活を享受できるよう取り組むこと。

3 計画の着実な推進に向けて

(1) 戦略的な施策展開

- ① 本市の現況や時代の潮流を踏まえ、特に先導的かつ重点的に取り組む重点プロジェクトについては、財政が厳しさを増す中においても取り組まなければならないものであることから、その理由や方向性を市民に分かりやすく示し、その意義を共有しながら、積極的に推進すること。

(2) 市民との共通のビジョン

- ① 施策の推進にあたっては、効率性はもとより、効果的な施策・事業の展開を図るとともに、適切な目標指標を設定し、進行管理を行いながら、その進捗について市民と共有していくこと。
- ② 総合計画は市民との共通のビジョンであることから、市民に分かりやすい計画となるよう、平易な言葉遣いや読みやすい文章の長さ・資料の順番に留意するほか、効果的にグラフ・写真を用いるなど、市民目線に立ったデザインとし、その周知に取り組むこと。

(3) 推進体制の強化

- ① 地域課題が複雑化、多様化する中、行政においては、部署間の連携や情報共有の強化を図ることはもとより、政策立案・遂行能力等を高める人材育成と、そのための環境づくりを進め、より効率的・効果的な課題解決につながるよう取り組むこと。

鹿 児 島 市 総 合 計 画 審 議 会

会 長	石 塚	孔 信	鹿児島大学法文学部教授
副会長	志 賀	玲 子	志學館大学法学部教授
委 員	植 村	恭 子	公募委員
〃	内 村	きぬ子	鹿児島市民生委員児童委員協議会副会長
〃	佐 藤	健太郎	GMOペパボ株式会社代表取締役社長
〃	下 町	和 三	日本労働組合総連合会 鹿児島県連合会会長
〃	玉 川	浩一郎	セイカ食品株式会社代表取締役社長
〃	保	直 延	鹿児島青年会議所直前理事長
〃	鄧	倩 儀	公募委員
〃	富 安	卓 滋	鹿児島大学大学院理工学研究科教授
〃	永 山	惠 子	鹿児島市社会福祉協議会副会長
〃	新 崎	恭 史	株式会社日本政策投資銀行南九州支店長
〃	西 野	友季子	株式会社ニュー西野ビル代表取締役
〃	原 口	典	鹿児島市老人クラブ連合会副会長
〃	日 高	裕 之	公募委員
〃	保 利	修	国土交通省九州地方整備局鹿児島港湾・空港整備事務所長
〃	前 田	圭 子	野田・馬場法律事務所弁護士
〃	前 原	寛	鹿児島国際大学福祉社会学部非常勤講師
〃	南	香 織	鹿児島市PTA連合会会長
〃	森 山	美 里	公募委員

(敬称略、委員は五十音順)